

西日本 不安材料多く弱基調のまま2月入り

(西日本) 西日本の鉄スクラップ市況は続落展開。先月30日からの東京製鉄西日本の値下げに域内全社が呼応した後も東西だけでなく、輸出との価格差は生じたままにあり、続落懸念を払拭しづらいまま2月入りを迎えている。

東京製鉄西日本は先月30日から一律1,000円の値下げを実施し、岡山工場特級買値3万8500円、九州同3万8000円へ後退となった。東京製鉄の価格対応待ちで下落圧力は高まっていたため、同社の影響力を持つ姫路以西では1,000円下げが波及。大阪地区でも品種によって荷止めや制限買いを行っていた合同製鉄がHS2,500円、新断1,500円、他品種1,000円の値下げを実施し、他7社は東京製鉄に合わせて一律1,000円の追随となった。今回は率先して下げ動いてきた東京製鉄宇都宮工場が買値を据え置きとし、関東沿岸もそれ以前から下げ足が揃わなくなっている。先月28日に韓国・現代製鉄は前回比4,500~6,000円安のH2FOB3万5000円、新断同3万9000円を提示しつつも、日本側のオファー及び成約数量はそれまでと比べて減少していることが伝えられるなど、

「東日本のパニック的な値下がりには落ち着きを取り戻してきた感もある。西日本の需要はそれなりに安定しており、ここまでの下げ方からしても、極端なものにはならないのでは」(ヤード業者筋)と過度な不安はないようだ。

一方、先週まで急落展開を見せた東京製鉄宇都宮工場と岡山工場との特級格差は9,500円に開いたままにあり、西日本優位な展開が続いている。アジア向け輸出商談も関東買値がベンチマークとなるため、域内買値は輸出や東日本と比べて割高な状態を維持する展開には変わらない。また、東京製鉄岡山工場は今週3日まで定期炉修を行い、今月中旬には九州工場も定修を計画していることも下げ圧力となっており、「輸出や東日本と価格差がある以上、ひとまずは現時点での指標といえるH2・3万5000円に向けてジリ安ですすんでいくのでは」(商社)と見る向きが多い。

大阪のH2実勢3万8500円中心、一部高値3万9500円、姫路同3万8000~3万8500円、九州同3万8000円前後。

近畿工業 ハリタ金属(富山)で AI搭載の選別ロボット「V-PICKER」のフィールドテストを実施 ~テストの様子を動画撮影し「2021NEW環境展」で紹介~

(兵庫) 破碎機・選別機メーカーの近畿工業(本社=兵庫県神戸市中央区、和田知樹社長)は、このほど総合リサイクル企業のハリタ金属(本社=富山県高岡市、張田真社長)とAI(人工知能)搭載の選別ロボット「V-PICKER(ヴィピッカー)」のフィールドテストを実施した。場所はハリタ金属の射水リサイクルセンター(富山県射水市)で、期間は約1週間。ハリタ金属で破碎処理した対象物の選別効果を測定・検証し、改良・改善を重ねて更なる選別精度向上を図る。

同機は、小型家電や雑品、廃自動車等の複合廃棄物を破碎処理後、同社で独自開発したAIが銅・真鍮・アルミなどの付加価値の高い非鉄スクラップを識別・選別する。カメラで撮影した対象物を色・形・サイズから瞬時に解析し、ロボットがピッキング。対象物の画像データを蓄積し追加学習することでAIが知識を習得、選別精度が向上する。機種はミックスメタル用の「吸着式」と銅がらみの鉄などを対象とする「磁着式」の2種類。コンパクトかつ軽量で設置もスムーズで、ユニット構造のため増設や2種類の併設も容易にできる。さらに同社の「スーパーシュレッダー」や「V-BUSTER」などの雑品スクラップ専用シュレッダーと組み合わせにより、破碎から選別までのトータルリサイクルも可能だ。

近畿工業は今回のフィールドテストに際し、大手リサイクル企業で破碎処理したものを使用して、今まで以上の検証結果データを取得できた。

またハリタ金属は、LEDリサイクルや太陽光パネルの大量処理、「世界初」となる鉄道車両に使用されるアルミ部材の水平リサイクルなど、先進的かつ高度なりサイクル技術を独自に確立し、業界でも一目置かれる総合リサイクル企業。常に次世代リサイクルを追究する中、自社工場内で最新鋭ロボット選別機の性能を確認できた。ハリタ金属の担当者は「効率的な人員の配置、働き方改革の推進、作業環境改善による社員の負担軽減や省人化、労働災害ゼロなど、ロボット導入効果に対する期待は大きい」と述べ、「(高度なりサイクル処理に向け、同機の)更なる選別精度向上にも期待したい」と所望した。



フィールドテストの様子

近畿工業が同機をリサイクル企業に持ち込み、顧客の商材を使用してデータ検証をするのは初の試みで、担当者は「お客様の率直な意見をダイレクトに聞くことができたのは大きな収穫となった。ハリタ金属様には本当に感謝している。(顧客の要望に合わせて)カスタマイズした機械を提案するのが当社の強み。今回の貴重なご意見・ご要望を今後に活かし、更なる高精度なロボット選別機を目指したい」と抱負を語った。

尚、近畿工業は3月17日~19日に東京ビッグサイトで開催される「2021NEW環境展」に出展し、自社ブース内で「V-PICKER」を展示するほか、今回のフィールドテストの様子を動画で紹介する。